

報道関係者各位

2017年7月11日

日本メジフィジックス株式会社

京都大学と共同研究契約を締結

～iPS細胞を応用した移植治療の臨床試験に向け画像診断薬製造を検討～

日本メジフィジックス株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：下田尚志）は、このたび国立大学法人京都大学（所在地：京都市左京区）と iPS 細胞を応用した移植治療の効果および安全性を評価するために必要な PET 診断薬の製造検討に関する共同研究契約を締結しました。今回の共同研究は当社の治験薬の製造管理、品質管理等に関する基準（治験薬 GMP）に準拠して PET 診断薬の製造及び品質試験法の最適化を行うものであり、将来的に京都大学が計画しているパーキンソン病に対する iPS 細胞由来ドパミン神経細胞移植治療の臨床試験（本研究開発は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」において、「パーキンソン病、脳血管障害に対する iPS 細胞由来神経細胞移植による機能再生治療法の開発」として支援されています。）での PET 診断薬の有効活用を目指しています。

パーキンソン病に対する iPS 細胞由来ドパミン神経細胞移植治療の臨床試験では、移植した細胞が正常に機能しているか、拒絶反応が起きていないかなど、移植細胞や移植された周辺の組織の状態を精密に確認することが求められます。京都大学 iPS 細胞研究所の高橋淳教授らは、動物を用いた試験において iPS 細胞を応用した細胞移植治療の有効性および安全性を示しており、PET による画像診断が細胞移植の効果を評価する方法として有用であると報告しています¹⁾。

京都大学 iPS 細胞研究所の高橋淳教授は、今回の共同研究について以下のように述べています。

「放射性医薬品の製造・供給において豊富な実績がある日本メジフィジックスとの共同研究は、パーキンソン病に対する iPS 細胞由来神経細胞移植治療の有効性や安全性を評価する上で大きな力になります。この共同研究を通して、iPS 細胞技術を用いた医療応用の早期実用化を目指してまいります。」

PET による画像診断は、治療薬の治験において治験薬の用量評価や治験対象患者の選別、治験薬の有効性および安全性の評価に有用な技術とされています。40年以上にわたる放射性医薬品の開発、製造、供給で培った経験と自社のインフラを有効活用することで、当社は治験薬 GMP に準拠する PET 診断用治験薬の製造供給が可能であることから、今回の共同研究契約の締結に至りました。

日本メジフィジックスは、PET による画像診断技術の分野で、iPS 細胞を応用した移植治療の研究開発に貢献することで、医療の発展により一層寄与してまいります。

¹⁾：出典 2012年1月24日 CiRA ニュースリリース

「パーキンソン病の細胞移植治療を検討するためのサルモデル評価系を確立」 Journal of Parkinson's Disease に掲載

日本メジフィジックス株式会社について

放射性医薬品を用いた核医学検査は、脳卒中、認知症、心臓病ならびに悪性腫瘍など幅広い疾病の診断に有用とされています。日本メジフィジックス (<http://www.nmp.co.jp>) は、住友化学株式会社と GE ヘルスケアグループの合弁企業で、放射性医薬品のトップメーカーとして、高品質な製剤の開発、製造、供給に取り組んでまいりました。当社は、前立腺がんの治療に用いられる密封小線源および固形がんの骨転移による疼痛緩和用放射性医薬品など治療分野の製品の充実も図るなど、今後も医療のさらなる発展のために貢献を続けてまいります。